

京都市立芸術大学音楽学部同窓会

# 真声会

会報 第72号

2021年5月1日

## 大学移転と音楽噴水

真声会会長 登 博美(20期・トロンボーン)

去る3月4日に大阪高等裁判所において、学校法人瓜生山学園が設置する大学の名称として「京都芸術大学」を使用しないよう求める訴訟の控訴審の第2回口頭弁論が開かれ、「真声会」並びに美術学部同窓会「象の会」からも役員が傍聴いたしました。その期日をもって控訴審の審理が終結し、7月8日に判決言い渡しが行なわれることとなりました。

昨年4月に旧京都造形芸術大学が名称変更してからまもなく1年が経とうとしています。昨年8月の一審判決は、両大学の類似性について「京都」「芸術」の文言はありふれたものであるなどして、本学の主張が退けられました。この間、両大学の在学生・卒業生だけでなく、受験生や市民の皆様を含む様々な方に多大な混乱をきたしています。控訴審判決においては、このような状況を鑑み、本学の主張が認められることを強く期待しております。

さて、JR京都駅を発着する在来線や新幹線の車窓から駅ビルの北東方向を望むと、大規模な工事が進められています。2023年10月に迎える京都市立芸術大学の京都市下京区崇仁地域への全面移転・開校に向けて、いよいよ校舎新築整備が着工されました。

昨年の10月にはこの移転を周知するため新キャンパスの模型がJR駅ビル西口広場に期間限定で公開されました。模型は縦90センチ、横170センチ、高さ25センチで実物の300分の1。オープニングイベントでは、赤松学長が「移転をきっかけに新たな芸術を発展させ、研究を深めていきたい」と挨拶され、音楽学部の学生が弦楽四重奏を披露し、同時に本学大学院生が手掛けた油絵や映像作品も展示されました。

このように大学移転が順調に滑り出そうとした矢先、大学の移転をめぐる、工事請負契約議案の取り下げを求める申し入れが市議会にされたとの報道がありました。いわく「財源の手当てや経済効果が説明されない」と工事が凍結されるよう迫っているということなのです。

確かに京都市は極度の財政難に陥っており借金返済用に積み立てている基金を取り崩すなどして帳尻を合わせて来ました。今年度は教育、文化など幅広い分野の事業や補助金100件を休廃止・削減するとしています。移転中止を求める声の多くが「経済効果がわからない移転は受け入れられない。経済へのメリットを数字で求めたい」「文化は否定しないが、経済活性化の根拠がない」など教育施設に経済効果を求めています。中には経済効果のない大学ではなく、商業施設や遊興施設などの誘致を訴える声もあると聞きます。

このような意見に対して、門川市長は「京都芸大の整備の流れを止めてしまえば、コロナ後の社会にある輝かしい京都の未来が見えなくなる」と推進が必要との姿勢を強調されました。

|                     |   |                |    |
|---------------------|---|----------------|----|
| 会長巻頭言.....          | 1 | 各支部活動報告.....   | 7  |
| 真声会賞報告・受賞者レポート..... | 2 | コンクール等受賞者..... | 9  |
| 卒業式・入学式の報告.....     | 5 | 後援演奏会情報.....   | 10 |
| 京芸だより.....          | 6 | 真声会活動報告.....   | 12 |

これまで大学移転構想の初めから長期にわたって行政や地元住民、大学が「芸大の街」とするために重ねてきた対話や努力に、これ以上ブレーキのかからないことを望むのみであります。

同じくJR京都駅北口広場に「音楽噴水」があるのをご存じでしょうか。市民にもあまり知られていないこの噴水はバスターミナル東側の地下街「ポルタ」の屋上に設置されています。夕暮れ時から午後9時半ごろにクラシックを中心とした音楽と光に合わせて水が噴き出すこの噴水は「音と光の芸術噴水—アクア・ファンタジー」と呼ばれ、帰宅途中の通勤客や観光客を魅了してきました。この噴水は京都市内の男性が「市民の憩いの場を作ることができれば」と私財を投げうって制作し、市に寄贈したものです。

しかし、この噴水の維持は一筋縄ではいかず、これも市議会で予算執行を差し止める決議が可決されました。京都市は市内企業に協賛金を募って負担金を捻出しようとしたしましたが、思うように集まらず、結局この男性が不足分を負担する状態が続いていました。今回、一旦はもう止めようと思われたのですが、周囲から背中を押されて今後10年の維持費として高額の寄付を決められました。

噴水は緊急事態宣言が発令された昨年より停止しており、現在はリニューアルに向けて準備中とのことです。再び駅前を明るく照らす日を心待ちにしています。

これまで観光都市京都としてツーリズムに依存・偏重してきた施策がコロナ禍の中で見直しを余儀なくされています。財政危機で自由に使える財源が不足する中、民間資金で穴埋めする苦肉の策としてふるさと納税などを頼りにしています。大学移転も音楽噴水もツーリズム的観点を目的にしたものではありません。都市計画の核となるのが文化芸術なのです。しかし、建物や基本的な施設ができたとしても、教育研究のための機器や楽器の購入・更新など、教育研究環境の充実の経費は大学の自己資金で賄う必要があります。

「若者・アートモデル地区」として環境を整え、移転後の教育研究の更なる充実や社会に開かれた芸術大学の実現のために、真声会会員の皆様方には、今後とも様々な形でご支援いただきますようお願い申し上げます。

## 第5回 真声会賞は 高田瑞希さん(声楽専攻)が受賞されました

真声会副会長 山本 千壽(17期・ピアノ)

令和2年度卒業生の中から、声楽専攻の高田瑞希さんが、真声会賞並びに副賞を受賞されました。本来なら、卒業式で、真声会会長からの表彰になる筈でしたが、今年も、新型コロナウイルス感染拡大により来賓が出席出来なくなり、真声会理事と学内委員を務めて頂いている山本毅教授からの授与となりました。

真声会賞とは、京芸在学中に受講されたすべての学業において、総合的に成績優秀と認められる卒業生を、真声会学内委員の先生方に選出して頂き、その数名に、任意のレポート提出を願った上で、真声会理事会で慎重に選考するものです。

今年の3人のレポートですが、1人は「音楽とともに」と題し、音楽は何かという難題に、真面目に取り組み、多くの題材に結びつけて自分に問いかけられました。2人目は「場が変容するとき」と題し、現在のコロナ禍での音楽の在り方を、自分の体験も含めて述べられました。3人目は「これまでの研究と今後の展望」として、京都ならではの狂言風オペラ、という興味深い題材を、小論文にまとめられました。

文章、内容共に、力作揃いで、選考する理事会では意見が割れました。本当に、僅差で、高田瑞希さんを選ばせていただきました。

毎年の真声会賞選考にあたりましての、京芸事務局教務課、学内委員の先生方のご協力には心より感謝して、ここに深く御礼申し上げます。新型コロナウイルスの1年を過ごし、卒業を迎えられた皆さんは、若い発想と新たな夢と希望をもって、活動の場を探求されることと信じております。

最後に、卒業生の今後のご健康とご活躍を祈念いたします。

## 真声会賞受賞者よりメッセージ



この度は榮譽ある賞を賜り、大変光榮に存じます。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。沢山の先生方や仲間に支えられながら音楽に直向きに取り組み、多くの学びを得た 4 年間で、京都市立芸術大学で出会った人々、音楽は私の大きな財産です。音楽を通して自分に何が出来るのかを常に問い続け、一層精進して参ります。

## 真声会賞受賞者レポート

### 場が変容するとき

高田 瑞希 (66 期・声楽)

コロナ禍の数か月間、生活から「生」の音楽が消えた。そしてそれに取って代わったのは配信という方法だった。新たな音楽の可能性として、また時代に即した音楽として非常に有用だと感じた。一方で秋頃漸く演奏会が再開され「生」の演奏を改めて聴くと、配信に物足りなさを覚えるようになった。この違いは何処から生じるのだろうか。

2020 年 3 月 7 日・8 日にびわ湖ホールにおいて無観客上演された『神々の黄昏』はライブ配信の先駆けであり、延べ数十万人以上が視聴するなど反響を呼んだ。私がこの公演を視聴したのは旅先のドイツにおいてであった。ワグナーの故郷であるドイツにおいてリアルタイムに日本での公演を見ることになることは、なんとも不思議な気分であったと同時に今まで経験したことのないライブ配信という形式に興奮を覚えた。そしてこの数十万人の中に同じく遠方からの視聴者は何人いるのだろうと思いを馳せていた。聴衆にとってこの形式は現地に赴く必要がなく、遠方からでもリアルタイムで配信をみることができるという利点がある。またそれにより文化享受の敷居が低くなることも考えられる。このような取り組みはベルリンフィルデジタルコンサートホール等で以前から行われているものではあるが、コロナ禍において主となった。録音や録画の配信も同様に、以前から行われていたが新型コロナを機に普及率が上がった形式である。実際に赴かなくて良いことに加え、アーカイブ等長期に渡って繰り返し視聴が可能であり、日時にとらわれない。これは奏者にとっても大きな利点である。すなわち通常であればコンサート会場に赴かないであろう不特定多数の人の目に触れる機会を生み出すことができ、新たなファンを取り込める可能性も生じる。

それらと比較すると「生」の演奏では会場に赴かなければならず、また“三密”が発生しやすい場であることから現在は抵抗感を抱く人も少なくはないだろう。ただ配信では味わえないものがあることも確かである。それは例えば音の響きや音の圧、空気感であろう。空気感と一言で表しても、聴衆の期待感やホールに満ちる緊張感、他の聴衆の気配など内容は様々である。普段なら煩わしいと思える楽章間のざわつきや動く気配すら、むしろ間を持たせ、次に始まる音楽を引き立たせているとさえ思われる。これは綺麗にノイズが消される配信時において感じるこ

とが出来ない効果だ。

奏者としても聴衆や共演者の空気を感じることは非常に重要である。音楽は奏者と聴き手の両方が居ようやく意味を成すものである。従って我々は形式が配信であっても聴く時、演奏する時ともに誰か相手の存在を意識している。コロナ禍となる以前は演奏中に聴衆の反応を間近で感じることができ、聴衆とのコミュニケーションを図ることができた。だがライブ配信ではどうか。私自身の体験として、直接的に聴衆の反応を見ることはできないが画面越しに誰かに見られていること意識しながら演奏することとなった。上記に例として挙げたびわ湖ホールの『神々の黄昏』では、休憩時間において視聴者数を奏者に伝えることによって奏者が間接的に聴衆を感じることができ、士気が保たれたようである。だれかがアクセスしているという感覚が数字に表れているのである。「生」の演奏とは異なり、演奏中は誰も聴衆の顔や反応を見ることは出来ないし、何人が見ているのか想像できない。しかし演奏



者と聴衆は仮想空間を通じて他者の存在を感じることが出来る。そしてそこには様々な解釈や思考を持つことが出来る、つまり多様性が認められた共同体が生まれる。これはメディアを介した間接的なコミュニケーションが行われると言える。

科学雑誌『NeuroImage』に掲載された研究によれば、音楽を通じて、演奏家と聴衆は感情的にも行動的にも、それどころか神経レベルですらつながっているとされている。音楽家は音楽を通して個人の想像力に働きかける。そして聴衆は音楽家が発信する情報を積極的に拾おうとしている。その時点で双方向のコミュニケーションが成立していると言えるだろう。歌い手が聴衆を意識したとき、言葉を届けよう、気持ちを伝えようとして歌い方が変わってくるものであるし、聴衆の反応や空気感を受けて表現にも変化が生じる。演奏を通してこのような授受関係が成り立っていることもコミュニケーションが重要な理由である。

音楽は共同体を形成するという側面を持ち得る。共同体の形成とは、目的を同じくした誰かとその時間、その場所を共有することによって生まれる特別なつながりと言えるのではないか。「生」の演奏においては、会場に集うことで自ずとその共同体が作られていた。この側面は演奏の届け方が異なっても同様である。そもそもYouTubeのコメント欄やSNSのように、ネットは相手の顔が見えないにも関わらず、多くの人の存在を感じることができる。それは共通のものを見たり考えたりしているという、ある種の共同体を生んでいる。従って従来のように会場に集わずとも、メディアを媒介することによっても集う場が存在し得る。ライブ配信ではリアルタイムでのコメントが可能となる。これは「生」の演奏会において起こり得ないことであり、新たな楽しみ方とも捉えられるだろう。またそのリアルタイムのコメントや視聴者数は、自分がその演奏会ないしイベントといった共同体へ参加しているという感覚を味わうことができるツールとなる。音楽を味わう形式はコロナ禍前後で変わらざるを得なかったが、共同体を形成する新たな手段や可能性が生まれたと前向きに考えることも出来るのではないか。

人類の歴史のなかで疫病は切っても切り離せないものである。これらの前後では大きな社会の変化がもたらされており、今回の新型コロナも例外ではない。その中で演奏会のライブ配信や録画配信、音楽家のYouTubeへの参加、リモート演奏など我々の活動は様々な可能性に富んでいる。それ故に私は、これからの音楽に携わる者として現在とても重要な局面に立たされており、音楽だけではなく様々なスキルを身につける必要を感じている。ただ従来の「生」の演奏でしか届かないものが存在することも確かである。どちらか一方に傾いてしまうのではなく両者を別のもので捉え、様々な方法で音楽を発信し、文化を高めていけるよう、これからの音楽家像について考えていかなければならない。そしてその際にただ演奏するのではなく聴衆との対話を心掛け、音楽の魅力を伝え、歌を通して多くの人に寄り添えるような演奏家になりたい。



# 入試、卒業式、そして入学式

真声会理事・学内委員 山本 毅（24 期・打楽器）

卒業式はかろうじて開催できましたが入学式は中止という前代未聞の春から 1 年、今春の卒業式・入学式についてレポートします。

令和 3 年 3 月 23 日、令和 2 年度美術学部・音楽学部卒業式並びに大学院美術研究科・音楽研究科学位記授与式が、令和 3 年 4 月 9 日、令和 3 年度京都市立芸術大学入学式が挙行されました。

卒業式・入学式ともに新型コロナウイルス感染症対策のため、卒業生、修了生、入学生と教職員のみで、音楽・美術の 2 部に分けて執行されました。例年ならご一緒にお祝いいただけるはずの御家族の皆様、関係者の皆様には、動画のライブ配信で御視聴いただきました。

さほど広くない講堂とはいえ、音楽学部、音楽研究科修士課程と博士課程あわせて約 80 名がディスタンスを確保しながら客席前部に着席しての式はいささか寂しさも感じさせられました。また、プログラムも簡素化され、いつもよりもずいぶん短い式となりました。とはいえ、卒業式では卒業・修了の喜びと未来への希望の、入学式ではこれからの学生生活に対する期待と決意の満ちあふれるひとは、列席者の一員として私もなんともいえず感動で胸を満たされました。本当によき時だったと思います。

また、入学式前日 4 月 8 日には昨年入学した学部生・大学院生を対象として『令和 2 年度入学式』も執り行われました。一年遅れての入学式、学生たちはどう感じしてくれるのか一抹の不安もありましたが、彼らの反応はおおむね良好で、「式をしてもらってうれしい」「出席するか迷ったが、結局出席してみてもやはりとてもよかった」「これでようやく入学したという実感が持てた」といった声が聞けたそうです。

それぞれの式典の様子、学長からの式辞は下記 Webpage（京都芸大 HP）でご覧いただけますのでご参照ください。

令和 2 年度学部卒業式並びに大学院学位記授与式 [https://www.kcua.ac.jp/20210323\\_ceremony/](https://www.kcua.ac.jp/20210323_ceremony/)

令和 3 年度京都市立芸術大学入学式 [https://www.kcua.ac.jp/20210409\\_entrance\\_ceremony/](https://www.kcua.ac.jp/20210409_entrance_ceremony/)

新 2 回生のための『令和 2 年度入学式』 [https://www.kcua.ac.jp/20210400\\_n2\\_ceremony/](https://www.kcua.ac.jp/20210400_n2_ceremony/)

さて、昨年から入学式の中止、規模の縮小、プログラムの簡素化等の非常事態を経験して式典についていろいろと考える機会を得ました。

入学式も卒業式も出席していて本当に感動するよき時ではあるのですが、この式典は本当に必要なものだろうかとも思うのです。というのも、私がかつてドイツで学んだ時、在籍していた大学でも、友人たちが行っていた他の大学でも入学式とか卒業式はなかったと記憶しています。今もそうなのかは不明ですが。また、私は高校の卒業式は欠席しています。その日が京芸の入試の日だったからです。そして、出席したことはしたのですが京芸の入学式、卒業式とも今や私の記憶にはほとんど残っていません。つまり私の人生で、私の高校卒業式、大学の入学式、卒業式はほとんど何の痕跡もないということなのです。そしてそのことは私の人生にとって何の損失にもなっていないというのが正直なところなのです。つまり、はっきり言って無かったからといって問題にはならないというのが現実です。

では、入学式・卒業式など無くてもいいと言ってしまってもよいのでしょうか。いや、そんなはずはないでしょう。

そんなことを考えてみて思ったことは、式典は意味があるのかどうかではなく、意味のある式典にできるかどうか問われているのだなということです。それは執行する大学の側にとっても、出席する入学生・卒業生にとってもです。

式典を意味のあるものとするためには何が一番大切なのか、特にプログラムの簡素化を余儀なくされた今年、それが問われる時だったと思います。

その意味ではやはり学長式辞と卒業生・修了生の答辞、入学生の宣誓が最も大切な核だと言えるでしょう。また入学式の学長式辞でも語られているように、本学では学生一人一人の名前の読み上げをどうしてもはずしてはならないものとして守りました。はたして、この式典を通して学生たちの人生に何をプレゼントできたのか、大学人として考えさせられる時でした。

このことは、実は式典以外のことであっても同じことが言えると思います。私たちの人生には様々なことが起こります。自分の判断ではよくないことと思えることもたくさん起こります。しかし、どんな出来事も、一見マイナスに見える出来事も、それをどう受け止めるかでその意味はまったく変わってくるのではないのでしょうか。人生で経験するすべてのことを意味のあるものにできるかどうかは、実は自分にかかっている。どんな出来事も自分の取り組み方一つでプラスにもできるし、マイナスにもできる。意味のあるものにもないものにもできるということではないのでしょうか。

いにしへの神学者パウロも書き残しています。「わたしたちは患難をも喜んでい。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。」と。

卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。皆さんのこれからの人生に幸多からんことを心から祈ります。

入学生の皆さん、新二回生の皆さん、入学おめでとうございます。これからの大学生活が実りあるものとなりますように。



# 京芸だより

## ◎ご挨拶

2023年度予定の移転がいよいよ2年後に迫り、準備に本腰をあげて取り組もうとしている矢先、感染症問題、名称問題などこれまでにない大きな問題が次々に発生し、なかなか教育に集中することが難しい悩ましい状況が続いています。

真声会の皆さまにおかれましては、日頃の教育活動のみならず、それらの突発的な問題に対しても多大なご配慮とご心配をいただき、さらに裁判費用、移転前の教育環境への多額なご寄付など金銭面でもサポートをいただき、まことに有り難く、心より感謝いたしております。

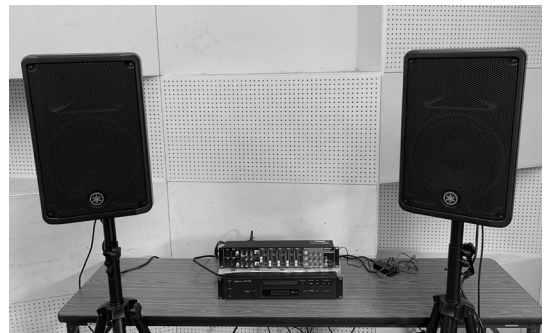
感染症に関しましては、大阪などの再拡大から実技指導が再びリモートになるような動きがある中、本学では昨年度後期より安全対策を施した上で対面での実技指導を継続しております。講堂や大合奏室のように大人数で利用できる施設については多くのチェック項目を設けて特に慎重に運用するよう心がけ、幸いなことにこれまで学内ではひとりの感染者も出しておりません。昨年夏の定期演奏会は断念したものの、冬はオーケストラの規模縮小、入場制限をしつつ開催いたしました。学生たちは、感染症の影響を微塵も感じさせない、不自由な環境下でのストレスを解放してくれるようなパワフルな演奏をしてくれました。久々のリアル・コンサートを通じて彼らの逞しさを感じ、厳しい環境下でも確実に成長してくれているのを肌で感じました。

名称問題に関しましては、会報などから特に皆さまのご心配がひしひしと伝わります。今回の控訴では弁護団を刷新するなど全力を尽くして、7月初旬の判決を待っているところです。

また先日は、皆さまのご寄付による教育活動支援金として大合奏室と小合奏室に音響再生装置を購入させていただきました。リハーサルの録音を、すぐその場でしかもメンバー全員で確認できるもので、山本毅先生、外村雄一郎先生にご選定いただき、移転後も使用できる耐久性のある機材を導入することができました。大切に活用させていただきます。

不自由な教育環境がまだしばらくは続きますが、どんな環境においても、出来ることを真摯に粛々と実行していくことが肝要と考えます。真声会の皆さまには重ねて御礼申し上げるとともに、今後ともどうか私どもにエールを下さいますようお願い申し上げます。

音楽学部長 砂原 悟



## ◎人事異動のお知らせ

・ご退任(2021年3月31日)  
ピアノ専攻 野原 みどり准教授  
音楽学専攻 山田 陽一 教授  
音楽学専攻 中井 悠 講師

・ご着任(2021年4月1日)  
ピアノ専攻 三船 優子 准教授  
音楽学専攻 川端 美都子 准教授  
音楽研究科長 山本 毅 教授

## ◎演奏会のご案内 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、実施方法や内容に変更がある場合があります。

### ウエスティ音暦1 [事前申込制]

日程: 6月5日(土) 14:00 開場 / 15:00 開演  
会場: 京都市西文化会館ウエスティ  
担当: 管・打楽専攻

### 第35回ピアノフェスティバル [事前申込制]

日程: 6月12日(土) 14:00 開場 / 14:30 開演(予定)  
会場: 京都府立府民ホールアルティ

### 第166回定期演奏会

日程: 7月8日(木) 18:00 開場 / 19:00 開演(予定)  
会場: 京都コンサートホール 大ホール  
指揮: 下野竜也教授 独唱: 佐藤もなみ※  
曲目: シェーンベルク / 主題と変奏 作品43a  
ベートーヴェン / 《フィデリオ》序曲 作品72b  
ラヴェル / ラ・ヴァルス  
プッチーニ / オペラ《ラ・ボエーム》より  
〈私の名前はミミ〉〈あなたの愛の呼ぶ声に〉※  
プッチーニ / オペラ《トスカ》より 〈歌に生き、愛に生き〉※  
ドヴォルザーク / 交響曲第8番 ト長調 作品88

### 特別演奏会「オーケストラ協演の夕べ」

日程: 10月11日(月) 18:00 開場 / 18:30 開演(予定)  
会場: 京都市立芸術大学 講堂  
指揮: 下野竜也教授、指揮専攻学生

### 文化会館コンサートI

日程: 11月17日(水) 18:30 開場 / 19:00 開演(予定)  
会場: 京都市北文化会館  
担当: 管・打楽専攻

### ハワイエコンサート

日程: 11月20日(土) 17:10 開演(予定)  
会場: 京都国立近代美術館  
担当: 声楽専攻  
プレトーク: 北村敏則准教授

### ウエスティ音暦2

日程: 11月27日(土) 13:30 開場 / 14:00 開演(予定)  
会場: 京都市西文化会館ウエスティ  
担当: 弦楽専攻

7月の定期演奏会は、無料でご入場いただけます。入口前の真声会受付にて記帳をお願いします。



## 支部報告

**大阪支部**      <http://senri-music.com/shinseikai-osaka/>「真声会大阪支部」でアクセス可

この一年、すっかり活動が止まっておりましたが、ようやく少しずつ動き出しております。一年振りに支部報 116 号（4 月 5 日）を発行いたしました。支部総会は、迷いに迷いましたが、感染対策を万全に行いながら、現時点では 5 月 30 日（日）エルおおさかを会場に懇親会を行わず総会のみ開催する予定です。まだ不安定な状態ではありますが、今年に入って会員のコンサート活動もあちらこちらで行われるようになり、春以降はかなり増えてきました。これからは with コロナの時期がしばらく続くことと思われ、生の演奏会は立ち上げから開催までの間に状況が変わっていくことを念頭に置いて取り組むことが必要となってきました。厳しい状況ではありますが、前に進むべく、支部でも少人数でのセミナー開催など可能な範囲で行える活動を少しずつ提案し始めています。今後はオンラインと生の演奏会の両面で活動を続けていく時代へと変化して行くと思われます。同窓会の活動もそれに対応していけるように工夫・努力していきたいと思います。

副支部長 大富 栄里子（28 期・ピアノ）

### 関東支部

会員の皆様、コロナお見舞い申し上げます。

関東支部の支部報告ですが、記載する事柄はほとんどありません。令和 2 年度の活動としましては、形ばかりの総会（出席予定者にメールをお送りし承認を頂きました）の開催のみ。コンサートは中止となりました。令和 3 年度の活動見込みですが、総会は支部会員に議案を郵送し、議決権行使書（ハガキ）にて承認を頂く予定です。また、現時点ではコロナの先行きが見通せない為にコンサートの企画も出来ない状態です。このような状況ですので、令和 3 年度は会費を徴収しない事といたしました。令和 4 年度には明るい支部報告が書ける事を願い祈るのみです。会員皆様も引き続き気をつけてお過ごしください。

支部長 宇野 徹哉（28 期・声楽）

### 京都支部

2020 年度は、コロナの緊急事態宣言ではじまり、様々な行動規制やリスク回避が喚起されることとなったことからすべての催しを中止しました。その中で 10 月により役員会を開催することができ、次年度の第 31 回支部総会や第 37 回プロムナードコンサート、会報の発行や京都支部への入会案内等の工夫についての検討を重ねて来ました。

再び感染者の増加が見られる中ですが、支部総会はこれまでの会場（ウィズユー）から京都商工会議所 7 階会議室へと広い場所に変更し、出席される方が距離を取って参加できるよう配慮し 5 月 16 日（日）14 時より行うことにしました。懇親会は中止しますが、昨年予定していた総会後の講演について、改めて門田氏にご依頼したところ快諾していただくことができ実現する運びとなったことも含め、会員の方への案内発送を終了しました。

9 月 19 日府民ホールアルティを会場に予定しているプロムナードコンサートについては、今のところホールの感染拡大予防ガイドラインに基づくことはもとより、今後の状況の変化を見ながら開催するべく準備を進めています。

連絡先／宮崎友香子（38 期・ピアノ） TEL & FAX 0774-93-3957    PC y.miyazaki.ykk@gmail.com

支部長 寒川 正晴（30 期・ホルン）

### 滋賀支部

東日本大震災から10年。節目の年ということで津波被害や原発事故の改めての検証が多くなされました。復旧から復興への道はまだ半ば。インフラ整備等復興予算の不適切な処理やカーボンニュートラルにかこつけた密かな原発回帰。人の戻らない現地の、被災した人々の想いはどこにあるのかと思います。

昨春のドイツのモニカ・グリュッター文化相の「芸術家は我々の生命維持に不可欠」とのスピーチとその施策は感動的なものでした。さて日本はとなると相当心細い限りです。

コロナ禍のこの1年、自粛の連続でまだまだ先が見通せませんが、支部活動も動き出していこうと思っています。まず総会は6月13日(日)午後からレストラン「ヴェルツブルグ」にて茶話会を含む形で、また支部演奏会「湖のしらべ」は11月27日(土)18:00よりびわ湖ホール小ホールで開催するべく企画しています。何れも感染予防対策を十分講じて実施できればと考えています。支部活動への皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします。

滋賀支部事務局 井出 悟 TEL & FAX 077-579-2171 大津市日吉台3-32-1

支部長 杉中 博(19期・トランペット)

### 中部支部

日頃の支部へのご理解、ご協力を心よりお礼申し上げます。2021年度第12回中部支部総会は、新型コロナウイルス感染再拡大の懸念から、昨年同様書面審議と致しました。今回は支部総会で配布予定の資料を全員に郵送、議案可否の回答で議決を得る形となります。より多くの会員の皆様にご参加いただけることを期待しております。また支部主催の演奏会「音に集う会」は、感染拡大の不安がぬぐえず、開催の目途が立っておりません。安全に感染防止対策を徹底しての開催も不可能ではありませんが、焦らず様子を見ることにしています。「支部会報22号」誌面では不安を抱えながらもしっかりと対策を講じ、工夫をこらして活動されている皆さまの現状をいくつか紹介させて頂きました。多くの方が励まされたことと思います。支部委員会開催も何度か中止に追い込まれましたが、昨年度の「支部会則」一部改正により、通信手段を駆使し、メールやオンラインでも試みることができました。しかしやはり対面にかなうものはないというのが実感です。台風、地震、豪雪など災害にみまわれることの多い昨今ですが、こんな時こそ「音楽の力」を信じる私達にできる事もあると思います。すべての会員の皆様にエールを送ります。今年度も変わらずご協力をよろしくお願い申し上げます。

連絡先 e-mail: ototsudo.con@gmail.com (中島) HP: <https://shinseikai-c.jimdo.com/>

支部長 中島 百合子(19期・作曲)

### 奈良支部

8月奈良支部恒例の音出し会に続き、3月の茶話会も中止させていただきました。役員会も集まってはできずに、リモートにて行いました。2021年定期演奏会を6月19日に行うこととなりました。14時開演(13時開場)場所は秋篠音楽堂です。今回は奈良支部にとって節目となる第20回目の定期演奏会を記念して、京都市立芸術大学で長らく教鞭をとってくださったチェロの上村昇先生をゲストにお迎えし、一曲演奏していただくことになりました。また司会を、2018年の定期演奏会にご出演いただきとても好評だった38期生の柳楽正人さんをお願いしました。

今年も支部総会は書面の送付と委任状にて総会に代えさせていただきます。何かありましたら [shinseikai\\_nara\\_shibu\\_info@yahoo.co.jp](mailto:shinseikai_nara_shibu_info@yahoo.co.jp) にご一報ください。

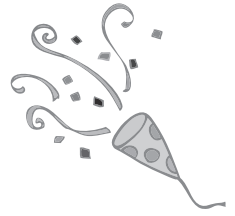
昨今の世界的情勢でどうなるかはわかりませんが、気を付けながら、平常に戻っていけるよう考えていきたいです。まずは平穏が取り戻せますよう祈念します。

支部長 菊田 義典(42期・声楽)



# 真声会会員のコンクール等受賞者

コンクール等受賞者の掲載に関しては、正確を期するため、大学の教授会で報告されたものを転載しております。真声会事務局への直接の受賞のご連絡は受け付けておりませんので、必ず、音楽学部教務課にご報告くださいますよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。



<令和2年度後期（2020年10月～3月教授会報告分）>

## ◆令和元年度 石川県文化奨励賞

福野 桂子（2000 年 3 月修士課程チェロ修了）

## ◆第 14 回ルーセル国際ピアノコンクール（Concours international de piano Albert Roussel）第 2 位

辰野 翼（2012 年 3 月ピアノ専攻卒業）

## ◆第 19 回宝塚バガ学生ピアノコンクール

大学生部門第 1 位，宝塚市長賞，ローズ賞

鶴我 日向子（ピアノ専攻 1 回生）

## ◆第 19 回宝塚バガ学生ピアノコンクール

大学生部門 第 2 位

目賀田 侑伽（ピアノ専攻 3 回生）

## ◆第 19 回宝塚バガ学生ピアノコンクール

大学生部門 第 3 位

中村 梨乃（ピアノ専攻 1 回生）

## ◆第 21 回大阪国際音楽コンクール

ピアノ部門 Age-U 第 3 位

中村 梨乃（ピアノ専攻 1 回生）

## ◆第 21 回大阪国際音楽コンクール

ピアノ部門 Age-U 入選

長山 佳加（ピアノ専攻 1 回生）

竹内 日菜多（ピアノ専攻 1 回生）

寺町 奏音（ピアノ専攻 1 回生）

長谷川 悠（ピアノ専攻 2 回生）

井上 愛弓（ピアノ専攻 2 回生）

中森 瑞貴（ピアノ専攻 2 回生）

新水 美奈（ピアノ専攻 3 回生）

## ◆第 21 回大阪国際音楽コンクール

リサイタルコース 第 3 位

山口 珠奈（ピアノ専攻 4 回生）

## ◆第 21 回大阪国際音楽コンクール

ピアノ部門 Age-G 入選

石澤 久美子（2017 年 3 月修士課程ピアノ修了）

## ◆第 21 回大阪国際音楽コンクール

弦楽器部門 Age-U エスポール賞

片岡 紀葉々（弦楽専攻 2 回生）

## ◆第 21 回大阪国際音楽コンクール

弦楽器部門 Age-U 入選

森 佳菜子（弦楽専攻 1 回生）

田中 志和（弦楽専攻 1 回生）

落合 真悠子（弦楽専攻 3 回生）

四家 絵捺（弦楽専攻 3 回生）

藤田 恵（修士課程ヴァイオリン 1 回生）

## ◆第 21 回大阪国際音楽コンクール

木管楽器部門 Age-U 第 3 位

谷口 らん菜（管・打楽専攻（サクソフォン）4 回生）

## ◆第 21 回大阪国際音楽コンクール

アンサンブル部門 第 2 位

森本 英希（2012 年 3 月修士課程フルート修了）

## ◆第 12 回東京国際声楽コンクール本選

大学生部門 奨励賞

三好 一輝（声楽専攻 2 回生）

## ◆第 12 回東京国際声楽コンクール本選

グランプリ部門 第 3 位（第 1 位なし）

廣田 雅亮（2020 年 3 月修士課程声楽専攻修了）

## ◆全日本学生音楽コンクール大阪大会本選

声楽部門 大学の部 第 2 位

佐々木 真衣（声楽専攻 4 回生）

## ◆第 7 回さかい九頭竜音楽コンクール

審査員奨励賞

石崎 桂（修士課程声楽専攻 1 回生）

## ◆第 7 回さかい九頭竜音楽コンクール（管楽器部門）

金賞，第 1 位，坂井市長賞

奥 真美（修士課程トロンボーン 1 回生）

## ◆第 16 回仙台フルートコンクール

入選

鎌田 邦裕（2018 年 3 月修士課程フルート修了）

## ◆バルトーク国際コンクール（Bartok World Competition 2020）第 1 位，特別賞

岡本 伸介（博士（後期）課程作曲 4 回生）

## ◆第 37 回現音作曲新人賞

入選

岡本 伸介（博士（後期）課程作曲 4 回生）

## ◆第 29 回 TIAA 全日本作曲コンクール

ソロ部門（編成：ピアノソロ） 審査員賞

室内楽部門（編成：フルート，ヴァイオリン，チェロ，

ピアノ，マリンバ） 奨励賞

土方 渚紗（作曲専攻 2 回生）

## ◆第 30 回日本クラシック音楽コンクール チェロ部門

大学の部 第 5 位（1 ～ 4 位なし）

柏木 基（弦楽専攻 3 回生）

## ◆第 2 回モスクワ国際音楽オンラインコンクール

（International Moscow Music Online-Competition）

ピアノ部門 18 歳～ 21 歳カテゴリー 第 1 位

竹内 日菜多（ピアノ専攻 1 回生）

## ◆ダヌビア・タレント国際音楽コンクール

オンライン 2020（Danubia Talents International Music

Competition ONLINE 2020）ピアノソロ部門 D カテゴリー

（1998 年以降の生まれ） 第 3 位

目賀田 侑伽（ピアノ専攻 3 回生）

## ◆現代音楽演奏コンクール“競奏XIV” 入選

中山 美輝（旧姓：陶山）（2016 年 3 月管・打楽専攻卒業）

## ◆第 26 回 KOBE 国際音楽コンクール 打楽器 C 部門

優秀賞及び神戸市教育委員会賞

コイチェフ イヴァイロ（管・打楽専攻 1 回生）

## ◆第 26 回 KOBE 国際音楽コンクール 打楽器 C 部門

奨励賞

永井 晴二郎（管・打楽専攻 2 回生）

## ◆Sardoal Young Talent Award 2020

Senior Category 第 2 位

天勝 悠太（ピアノ専攻 2 回生）

## ◆Sardoal Young Talent Award 2020

Senior Category 第 3 位

鶴岡 空輝（修士課程ピアノ 1 回生）

## ◆Sardoal Young Talent Award 2020

名誉ディプロマ

荒石 果穂（ピアノ専攻 3 回生）

## ◆第 5 回 Dolce canto コンクール 声楽部門

一般 A2 の部 第 2 位

松尾 毅（1989 年 3 月修士課程声楽専攻修了）

## ◆第 29 回ブルクハルト国際音楽コンクール 声楽部門

審査員賞

松尾 毅（1989 年 3 月修士課程声楽専攻修了）

## ◆第 5 回フューチャースターズ国際ピアノコンペティション

Category Young Masters（年齢制限なし）

第 5 位及び Artistic Director Special Talent Mention

中野 万里子（1979 年 3 月ピアノ専攻卒業）

## ◆第 22 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会

ソロアーティスト部門 奨励賞

中野 万里子（1979 年 3 月ピアノ専攻卒業）

## ◆公益財団法人平和堂財団 2020 年度芸術奨励賞（音楽部門）

廣田 沙羅（ピアノ専攻 4 回生）

## ◆第 9 回みおつくし音楽祭大阪クラシックコンクール

一般大学生の部（弦楽器） 第 1 位及び大阪府知事賞

大場 由加里（弦楽専攻 3 回生）

## ◆第 49 回堺市新人演奏会

最優秀賞

山口 珠（ピアノ専攻 4 回生）

## ◆第 1 回国際オカリナ・レイブコンクール（オカリナ

奏者のための国際コンクール）独奏部門 B 第 1 位

栗辻 泰史（1981 年 3 月音楽学部管・打楽専攻卒業）

# 後援演奏会情報

## ♪アフター・アワーズ・セッション 京の秋を彩る音楽会

日時: 2020年11月20日(金) 19:00

会場: パピリオンコート

出演: 右近恭子(25期Pf)、日野俊介(29期Vc)、松原央樹(29期Cl)

## ♪現代音楽グループ「響キ前線」第3回公演

「創造する室内楽 ～白小路紗季氏を迎えて～」

日時: 2020年12月12日(土) 19:00

会場: 豊中市立文化芸術センター(小ホール)

出演: 岡本伸介(56期Comp)、山川和也(63期Comp)、宋和映(54期Pf)、福田彩乃(63期Sax)

## ♪アフター・アワーズ・セッション

クリスマスのポップス 2020

日時: 2020年12月18日(金) 19:00

会場: 日本基督教団 天満教会

出演: 右近恭子(25期Pf)、松原央樹(29期Cl)、ギオルギ・バプアゼ(教員Vn)

## ♪トリオドゥマン ピアノ三重奏コンサートシリーズ Vol.4

フランスからの風～ドビュッシーとラヴェル～

日時: 2021年1月17日(日) 14:00

会場: ヒビキミュージックサロンリーヴズ

出演: 小西果林(61期Vn)、西村まなみ(62期Vc)、中川千絵(61期Pf)

## ♪新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ+

vol.10 喜多ちひろヴァイオリンリサイタル

日時: 2021年1月22日(金) 19:00

会場: 兵庫県民会館 けんみんホール

出演: 喜多ちひろ(53期Vn)

## ♪(公財)西宮市文化振興財団 FIGHT TOGETHER PROJECT II 採択公演

ピアノと声楽でたどる 戦後日本の作曲家 I

日時: 2021年1月30日(土) 17:30

会場: 西宮市フレンテホール

出演: 大西凌(61期Vo)、志賀俊亮(61期Pf)

## ♪伊藤咲代子クラリネットリサイタル

新進演奏家育成プロジェクト リサイタルシリーズ KYOTO11

日時: 2021年2月12日(金) 19:00

会場: 京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

出演: 伊藤咲代子(53期Cl)、笹まり恵(54期Pf)

## ♪アフター・アワーズ・セッション「キャトル・スール」

日時: 2021年2月23日(火・祝) 15:00

会場: 日本基督教団 島之内教会

出演: 池村佳子(45期Vc)、右近恭子(25期Pf)

## ♪中西金也バリトンリサイタルII ピアノ 益子明美

日時: 2021年3月6日(土) 14:00

会場: 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演: 中西金也(49期Vo)

## ♪古川知子ピアノコンサート ソロ & アンサンブル

日時: 2021年3月8日(月) 19:00

会場: 神戸新聞 松方ホール

出演: 古川知子(30期Pf)

## ♪黒澤あみピアノリサイタル(公財) 青山音楽財団新人助成公演

日時: 2021年3月19日(金) 19:00 【中止】

会場: 青山音楽記念館バロックザール

出演: 黒澤あみ(63期pf)

## ♪ Special Chamber Concert 朴梨恵室内楽コンサート vol.6

日時: 2021年3月25日(木) 14:30, 19:00

会場: 府民ホール アルティ

出演: 朴梨恵(54期Va)

## ♪春のデュオ ～第7回 デュオリサイタル～

日時: 2021年4月16日(金) 19:00

会場: ミューザ川崎シンフォニーホール 『市民交流室』

出演: 鈴木梨津子(24期Vn)

## ♪武内紗和子トロンボーンリサイタル

日時: 2021年5月1日(土) 18:00

会場: 京都文化博物館 別館ホール

出演: 武内紗和子(51期Tb)、笹まり恵(53期Pf)

## ♪レクチャーコンサート「ワーグナー旋風」

日時: 2021年5月16日(日) 14:30

会場: つくばノバホール別館(小ホール)

出演: 奥田千春(29期Pf)

## ♪ Le Billet Doux 恋文 1er ～旅への誘い～

日時: 2021年5月29日(土) 14:00

会場: 横浜市神奈川区民文化センターかなつくホール

出演: 吉府充希子(34期・院4Vo)、白水裕憲(33期・院3Fl)

## ♪音楽の森 Vol.3 ～東欧編～

日時: 2021年6月5日(土) 14:00

会場: 大阪狭山市文化会館 SAYAKA ホール [コンベンションホール]

出演: 藤原 さおり(46期Vo)

## ♪ 古川葵 × 大西真衣 Duo Concert ～幻彩～

日時：京都公演 2021 年 7 月 2 日（金）19:00

大阪公演 2021 年 7 月 4 日（日）15:00

会場：京都公演 レストランポキンズ

大阪公演 豊南橋サロン

出演：古川葵（58 期 Vn）

## ♪ 小林紗代子ピアノリサイタル

（公財）青山音楽財団新人助成公演

日時：2021 年 7 月 30 日（金）19:00 開演

会場：青山音楽記念館バロックザール

出演：小林紗代子（63 期期 Pf）

## ♪ String Octet!!!

～京都市立芸術大学ゆかりの 8 名によるアンサンブル～

日時：2021 年 8 月 9 日（月・祝）

開場 14:30 / 開演 15:00

会場：京都府 京都文化博物館 別館ホール

出演：今西彩菜（58 期 / 院 60 期 Vn）、柴田咲（院 60 期 Vn）、

小西果林（59 期 / 院 61 期 Vn）、米井遥香（63 期 Vn）、原田詩

穂（62 期 Vn）、木田奏帆（65 期 Vn）、西村まなみ（62 期 Vc）、

山内睦大（院 66 期 Vc）

## ♪ 吉田円香 チェロリサイタル

日時：2021 年 8 月 20 日（金）19:00

会場：住友生命いずみホール

出演：吉田円香（56 期 Vc）

## ♪ 室内楽の愉しみ

日時：2020 年 9 月 11 日（土）18:00 開演

会場：あいれふホール

出演：白水 大地（63 期 Vc）、吉田 菜々子（Pf）、白水 風歌（Vn, Pf）

## ♪ 栗木充代メゾ・ソプラノリサイタル

対話する時間Ⅳ

日時：2021 年 9 月 24 日（金）19:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演：栗木充代（34 期 Vo）

## ♪ 福田彩乃サクソフォンリサイタル vol.3

（公財）青山音楽財団助成公演

日時：2021 年 10 月 27 日（水）19:00

会場：青山音楽記念館バロックザール

出演：福田彩乃（63.65 期 Sax）、曾我部智花（63.65 期 Pf）

# 御礼 ～本学に対する御支援について

真声会会員の皆様には、日頃から大学運営に多大な御協力をいただきありがとうございます。

この度、旧京都造形芸術大学が「京都芸術大学」の名称を使用することを差し止める訴訟に対し、同窓会様から訴訟費用へと多額の御寄付をいただきました。心から感謝申し上げます。

現在、訴訟は大阪高等裁判所にて控訴審を争っており、同窓会様で集めていただいております署名などの新たな証拠も加えて主張しております。同窓会様からの御寄付や署名は、訴訟を継続するに当たって大きな支援となるだけでなく、改めて、皆様が母校を誇りに思い、応援し続けてくださっていることを実感し、大変力強い思いです。

また、令和 5 年度に予定しております京都駅東部エリアへの新キャンパス移転に対しても、真声会会員の皆様から続々と御支援をいただいております。重ねて御礼申し上げます。移転後の教育研究のさらなる充実、社会に開かれた芸術大学の実現には、相当額の資金を必要とします。皆様には、引き続き、温かいご理解と御協力をよろしくお願いいたします。

京都市立芸術大学理事長 赤松玉女

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます。

6 期 杉野 昌子 様（声楽）

8 期 野村 紀之 様（ヴァイオリン）



# 真声会理事会報告

## 2020年度 第3回理事会

日時 2020年11月10日(火) 19時～21時

会場 京都聖ヨハネ教会 会議室

出席者

理事：登博美、山本千尋、杉中博、佐藤敏子、山本毅、小松淳史  
中村公俊

監査役：笹まり恵

議題 1. 造形大名称変更問題について

2. 真声会賞について

3. 卒業・入学のお祝いについて

4. 象の会の今後の方針について

5. 真声会70周年記念事業(2025年)について

6. その他

## 2020年度 第4回理事会

日時 2021年1月26日(火) 19時～21時

会場 京都聖ヨハネ教会 会議室

出席者

理事：登博美、山本千尋、杉中博、佐藤敏子、山本毅、阿部千鶴  
中村公俊、小松淳史

監査役：笹まり恵

議題 1. 造形大名称変更問題について

2. 大学移転に関する寄付依頼について

3. 学内委員へのアンケートについて

4. 会報72号について

5. 真声会70周年記念事業(2025年)について

6. その他

## 2020年度 第5回理事会

日時 2021年3月16日(火) 19時～21時

会場 京都聖ヨハネ教会 会議室

出席者

理事：登博美、山本千尋、杉中博、佐藤敏子、山本毅、阿部千鶴  
中村公俊、小松淳史

監査役：朴実

議題 1. 真声会賞の選考

2. 造形大名称変更問題について

3. 総会開催の可否について

4. 学内委員へのアンケートについて

5. 事業計画、予算案について

6. 真声会70周年記念事業(2025年)について

7. その他



# 真声会 2021年度総会の中止について

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、理事会において中止の決定をさせていただくことになりました。つきましては、皆様にはご迷惑をお掛けすることとは存じますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、総会資料をご一読いただき、理事会への委任状か、議決権行使書にご記入のうえ、同封の返信用ハガキにて、6月1日(火)までに返信いただきますようお願い致します。ご不明な点がございましたらお問い合わせください。

# 事務局より

2021年3月29日に、5万円の終身会費が振り込まれましたが、住所、氏名、専攻、会員番号が空欄のままでしたので、事務処理ができません。

お心あたりの方は、事務局(shinsei@kcua.ac.jp)まで、振込郵便局名を明記の上、ご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。



京都市立芸術大学音楽学部同窓会  
Kyoto City University of Arts Alumni Association

発行所

真声会 京都市立芸術大学音楽学部内

〒610-1197 京都市西京区大枝杏掛町13番地の6

TEL: 080-6185-4494 FAX: 075-320-2520

e-mail: shinsei@kcua.ac.jp

HP: http://www.shinseikai-kcua.net

Facebook: https://www.facebook.com/KCUA.AlumniAssociation.Shinseikai

郵便振替口座 01070-4-16071 真声会